

動画(10)

被害者(※)と接するにあたって

(※)本動画では、犯罪被害者及びその家族、遺族を示しています

公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士

木本 克己



赤い羽根福祉基金 特別プログラム
「被害者やその家族等への支援活動助成」

被害者から相談を受けるにあたって

- ◆ まず準備すべきこととして...
 - ・ 被害者の置かれている状況、心情を理解しておく。
 - ・ 相談の枠組みを決める。
 - ・ どんな支援ができるか、どんな連携先があるかを把握しておく。
 - ・ 相談窓口の周知

被害者からの相談を受けたら...(1)

- ◆ まず、話をお聴きする
 - ・ いまここでの緊急性の確認
 - ・ 被害者が話しやすいような工夫
 - ・ まずは話をさえぎらず、話したいことを話してもらう。
 - ・ 窓口の支援対象者かどうかの確認
 - ・ 被害の概要等については、必要以上に尋ねない。

被害者からの相談を受けたら...(2)

- ◆ 被害者の困りごと、希望の確認
 - ・ 話せないこと、気づかないことを含め、困りごとや希望（ここでは「ニーズ」と呼ぶ）の確認
 - ・ 複数のニーズがある場合、優先順位をつける。

被害者からの相談を受けたら...(3)

◆ 支援に向けて

- ・ ニーズに対して、被害者がすでに行っていること、対処を確認
- ・ まだ満たされていないニーズに対し、どのような資源が活用できるかを、被害者と一緒に検討する。
- ・ 窓口で提供できる制度(サービス)を提供する。
- ・ 提供できない場合は、つなぎ先を考え、紹介する。

被害者が直面する状況の理解

- ◆ 犯罪による直接的な被害

- ◆ 被害後に直面する二次被害

被害者の心情の理解

- ◆ 被害者が、しばしば体験する心情（藤森,2001から抜粋、改変）
 - ・ 否認 : 「信じられない」「悪夢のよう」感情、感覚のマヒ
 - ・ 怒り : 加害者への処罰感情、自責感、反転するとうつ症状
 - ・ 恥 : 自責感、人に話せない、自尊心の低下
 - ・ 恐怖 : 安心感の喪失
 - ・ 孤独感: 「誰にもわかってもらえない(わかるはずがない)」、「助けてもらえない」
 - ・ 無力感: 自分ではどうしようもない、何もできない
 - ・ 後悔、罪悪感: 「~していれば...」「防ぐことができなかった...」

被害者が直面する喪失体験の理解

- ◆ 被害者が、しばしば体験する喪失体験
 - ・ 生命、健康の喪失
 - ・ 財産の喪失
 - ・ 自尊心の喪失
 - ・ 関係性の喪失
 - ・ 安心感の喪失
 - ・ コントロール感の喪失など



被害者の個別性の理解

- ◆ 多くに共通する傾向はあるが、被害の受け止め方は人それぞれ
 - ・ 家族成員による違いと、それが許容されない場合に注意
 - ・ もともとの特性(障害の有無、サポートの有無、過去の喪失体験など)によっても異なる。(ストレス耐性など)

- ◆ 被害とそれに伴う体験をどこまで表出するか(性別、年齢、文化、価値観など)

被害者と接するときの基本的態度(1)

- ◆ 二次被害を与えない
 - ・ 安心できる「場」の確保
 - ・ 支援者の価値観はいったん、脇に置く。(被害者を責めない)
 - ・ 被害者のペースで話していただく。
(ただし、被害者の負担にならないような工夫が必要)
 - ・ 支援者が「できること(できそうなこと)」と「できないこと」をあいまいにしない。

被害者と接するときの基本的態度(2)

- ◆ 被害者を「被害に遭った気の毒な人」として扱わない
 - ・ 「悲しむこと」も「怒ること」も「楽しむこと」も被害者の権利
 - ・ ねぎらう。
 - ・ 被害者が「できていること」に着目する。
 - ・ 被害者が持つ、もともとある資源(家族、友人、コミュニティ、知識、技能など)に着目する。

被害者と接するときの基本的態度(3)

- ◆ 時間が解決してくれるのか？
 - ・ 何年経っても、悲しみや怒りは消えるものではない。
被害前と「まったく同じ生活」には戻れない。
 - ・ 生活上の支援は必要なものだが、それがすべてではない。

カウンセリングや精神科につなげるかどうか

- ◆ 代表的な精神症状としては、うつ病、PTSD、複雑性悲嘆、不安障害など
- ◆ 被害者が望んでいるかどうか
- ◆ 「死にたいと思うようなことはありませんか？」(希死念慮)

最後に・・・

- ◆ ここで示した「被害者の理解」も「基本的態度」も、完全に理解して常にそのようにできることは難しい、と承知しておく
- ◆ ただし、こうしたことに常に配慮し、「努める」ことで、二次被害を少しでも減らすことができる

引用文献

- 櫻井鼓（2021）わかれについて（犯罪被害者遺族）. 臨床心理学126. 693-696.
藤森和美 編（2001）被害者のトラウマとその支援. 誠信書房.